

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年7月28日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|--|-------|------------|
| 事業所番号 | 2870800899 | | |
| 法人名 | 力開発株式会社 | | |
| 事業所名 | グループホーム舞子 | | |
| 所在地 | 神戸市垂水区舞子坂3丁目14-21 (電話) 078-787-7511 | | |
| 評価機関名 | 社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 神戸市中央区坂口通2-1-18 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年6月12日 | 評価確定日 | 平成20年7月28日 |

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR舞子駅から、バスで10分ほどの交通の便のいい街中にある。自社ビルの1階がデイサービス、2・3階がグループホームとなっている。ビルの中にあるが、アットホームな雰囲気が漂い、またホームからは明石海峡大橋が望める。開設後5年を過ぎたが、職員の定着率は高く、管理者・職員ともに熱心に日々のケアに取り組んでおり、各ユニットのカラーができつつある。今後は、全職員のレベルアップのための研修計画の作成や、利用者の状態の変化への対応策などを、利用者本人や家族の思いを大切にしながら、運営推進会議で協議し、着実に取り組んでいくことが望まれる。

【重点項目への取組状況】

| | |
|------|--|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 前回評価の課題であった、2階の玄関開放については、評価後開放に取り組む、現在特に問題は起こっていない。その他、地域との付き合いや運営推進会議の活用に関しては、展開の余地があり、これからの取り組みが期待される。 |
| | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 今回は、自己評価項目に関して各ユニット内でそれぞれ話し合い、その結果を副代表が記載した。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 会議の中では、ホーム側からの報告だけでなく、家族・地域包括支援センターやかかりつけ医など参加者からの意見も出されている。しかし、ホームが昨年来課題としている利用者の重度化への対応・看取りに関してなどの重要課題に対しては、現時点で踏み込んだ話し合いをするには至っていない。 |
| | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 家族に対しては、必要に応じ電話で利用者の様子を報告しているが、今後は訪問の少ない家族も含めて、こまめに家族の思い等を聞き取り、利用者の重度化への対応といった重要課題について、運営推進会議に図っていくことが望まれる。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 地域の夏祭りに参加したり、トライやるウィークの中学生の受け入れ等を実施している。今後はさらに、ホームが持っている認知症ケアのノウハウを地域に還元し、また入居者一人ひとりが、地域住民としてもっと地域行事に参加できるなど、街中にあるという立地条件を活かした双方向の交流が図られることを期待したい。 |

【情報提供票より】(平成20年5月20日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|------------|----------------------|-------|
| 開設年月日 | 平成15年4月15日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 18 人 | 常勤 14人, 非常勤 4人, 常勤換算 | 14.6人 |

(2) 建物概要

| | | |
|------|-------|--------|
| 建物構造 | 耐火構造 | 造り |
| | 3階建ての | 2~3階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|-----------------|-----------------|------------|----------|-------|
| 家賃(平均月額) | 55,000 円 | その他の経費(月額) | 15,000 円 | |
| 敷金 | (有)(200,000円) 無 | | | |
| 保証金の有無(入居一時金含む) | 有() 円) | 有りの場合償却の有無 | 有 / 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 200 円 | 昼食 | 400 円 |
| | 夕食 | 400 円 | おやつ | 150 円 |
| | または1日当たり | | 円 | |

(4) 利用者の概要(5月20日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 3 名 | 女性 | 15 名 |
| 要介護1 | 2 名 | 要介護2 | 4 名 | | |
| 要介護3 | 8 名 | 要介護4 | 3 名 | | |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 85.7 歳 | 最低 | 75 歳 | 最高 | 98 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|------|
| 協力医療機関名 | 黒田医院 |
|---------|------|

2. 第三者評価結果票

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|----|--|--|---------------------|--|
| . 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 開設以来、「健康サポート」「安心生活」「生きがいのある毎日」づくりの三つを理念とし、各ユニット等にも掲示している。 | | グループホームが地域密着型サービスとして位置付けられ1年が経過したこともあり、現在の理念を踏まえながらも、地域住民の目に見える形で地域密着型のグループホームとしての理念を検討することが期待される。 |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | ミーティング等を通じて日常的に理念について話し、理念を身近なものとして捉え、いつでも理念をもとにした実践に戻れるように取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会に加入し、地域の夏祭り等に参加したり、トライやるウィークの中学生を受け入れたりしている。しかし、地域の方が頻繁にホームを訪れたり、災害時に確実に応援を得られるような、双方向の交流までは至っていない。 | | 今後はさらに、ホームが持っている認知症ケアのノウハウを地域に還元し、また市街地にあるという立地条件を活かして、利用者一人ひとりが、地域住民として地域行事に参加できるような働きかけや1階サービス部分のフロアの活用が期待される。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 前回評価の後、実施できていなかった2階の玄関開放に取り組んだ。今回の自己評価は、各ユニットで十分検討した結果を副代表がまとめて記載した。 | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|----|--|---|---------------------|---|
| 5 | 8 | <p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> | <p>利用者や家族もできるだけ交替で参加し、これまでに5回実施した。ホームからの報告事項の伝達だけでなく、参加者から意見を聴取してもらっている。ただ、平日の限られた時間内の開催のため、踏み込んだ話し合いには至っていない。</p> | | <p>地域を巻き込んだ災害時の応援体制の構築や、医療面のサポートを含め利用者の重度化に対してどう取り組んでいくかといった重要事項に関して、より踏み込んだ話し合いを行うことが望まれる。</p> |
| 6 | 9 | <p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> | <p>市主催の研修会には積極的に参加している。日々のホームの運営で困っていることや疑問点は、市高齢福祉課にこまめに問い合わせを行うなどして連携を図っている。</p> | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | <p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> | <p>年4回のホーム便り送付のほか、家族訪問時には必ず副代表等が対応し、話を聞くようにしている。 家族に対しては、必要に応じ、電話で利用者の様子を報告しているが、定期的な文書での報告は行っていない。</p> | | |
| 8 | 15 | <p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>苦情窓口等は重要事項説明書に記載し、ホーム内にも掲示している。これまで家族からの具体的な要望や大きな苦情はなかった。 利用者の重度化への対応・看取りに関してなどの重要課題に対しては、現時点で踏み込んだ話し合いをするには至っていない。</p> | | <p>よく訪問される家族だけでなく、訪問の少ない家族も含めて、定期的に家族の思い等を聞き取る機会を設け、それらを運営に反映させ、利用者の重度化への対応といった今後の重要課題等について運営推進会議に図っていくことが望まれる。</p> |
| 9 | 18 | <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | <p>各ユニット固定の職員シフトを組んでいるが、合同での行事等も実施し、利用者や全職員が顔馴染みになるよう配慮している。 職員の定着率はよく、前回評価時以降の離職者は1名のみである。副代表もフリーの立場で現場に入るなどして、ダメージのないように工夫している。</p> | | |


| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|---|--|---------------------|--|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ホーム内研修の他、外部研修の情報を提供し、申込みがあれば有給休暇で参加できるようシフトを組むようにしている。介護福祉士受験に際しては資料提供等を行った。 しかし、受講した研修内容を共有できるようにしているが、全職員が均等に研修に参加するまでには至っていない。 | | 介護福祉士試験に多数が合格するなど、積極的に研修に参加したり、自己研鑽に励む職員が多い。しかし、職員の自主性に委ねるだけでなく、ケアの質の向上を図るためにもホームとして年次研修計画を立て、研修に参加した職員を講師とした伝達講習会を行うなど、全職員が共有していくことが望まれる。 |
| 11 | 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 区内にグループホーム連絡会はまだ設立されていないが、他区のホームが実施する講習会に参加したり、他のホームへ見学に行ったりして、サービスの質の向上へつながるよう交流を図っている。 | | |
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 利用希望者宅へ出向いて面談したり、ホームへ1日体験利用に来てもらい、一緒に食事をとるなどして、馴染めるよう工夫している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | 利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者から糠漬や梅酒作りなどを教えてもらい、一緒に作業を行っている。 開設5年を過ぎ、職員と利用者が家族に近い関係になりつつあり、職員自身の話を聞いてもらったり、一緒に怒ったり、泣いたり、笑ったりして過ごしている。 | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|----|--|--|---------------------|-----------------------------------|
| ・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1.一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> | <p>担当制をとっているが担当者だけでなく、全職員が耳の遠い方には小さなボードを使うなど利用者個々の状況に応じた工夫を行っている。</p> <p>また、入居時のアセスメントや家族からの聞き取りのほか、普段の会話から、利用者の希望や意向を聞き、記録に残すようにしている。</p> | | |
| 2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> | <p>介護計画は、職員全員が意見を出し合った後に、利用者・家族・主治医・看護師等の意見を加味したものを作成し、家族の同意を得ている。</p> | | |
| 16 | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | <p>通常は3ヵ月に1回見直しを行い、状態に変化がある時は、その都度関係者が話し合い、現状に即した介護計画の作成に努めている。</p> | | |
| 3.多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | <p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p> | <p>医療連携体制での医療面の支援のほか、各ユニットのスペースの狭さを補うために、1階デイサービスを利用しての催しを開催している。</p> | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------|----|---|--|---------------------|--|
| 4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 従来からの主治医を希望される方には、家族とともに受診していただき、ホームのかかりつけ医の月2回の往診の他にも、必要に応じ各診療科の受診を支援している。 | | |
| 19 | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | ホーム開設5年を過ぎ、利用者の状態はかなり変わってきている。現時点では、ホームでの看取り経験はなく、ホームの方針としても、重要事項説明書の医療連携体制の項に「重度化した場合...協議確認の上、適切な支援を行う」と記載しているのみである。昨年、救急車を呼ぶような事態での「延命の意志表示書」は全員から提出を受けた。 | | 現在利用者の重度化への対応が大きな問題となっており、利用者の重度化や終末期の問題についてできること、できないことを含めて、ホームの方針を明確にすることが望まれる。また、職員の不安を除去し、医療面のサポートを充実させ、ターミナルケアの可能性について家族も含めて話し合うことが期待される。 |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 採用時に個人情報保護義務に関して十分説明を行い、記録等の取り扱いには日常的に注意を払っている。 家族的な雰囲気は維持しながらも、利用者に対して、ぞんざいな言葉かけとならぬように常に配慮している。 | | |
| 21 | 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員がゆとりを持って対応できるよう、副代表が必要に応じ応援に入るなどして、各利用者のペースに合わせられるよう配慮している。 利用者各自の要望を出してもらえようような雰囲気・関係作りを行い、要望にはできるだけ応えるよう努めている。 | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|--|--|---------------------|-----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | ユニット毎に、利用者の希望を聞きながら週間メニューを作成し、週2回程度買い出しに出かけている。食事は3食とも台所で作り、味付けや片付けなど可能な範囲で利用者にも手伝ってもらっている。利用者の状態に応じた食事形態もとっている。 | | |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | おやつ後の夕方の週3回が入浴時間となっている。一番風呂を好む方や各種入浴剤を使用する方など各自の希望に対応している。夏場は、毎日のシャワーも可能である。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者が自分で決めて、裏庭の花の水遣りや洗濯物たたみ等を行っている。色紙細工や裁縫を好んで行う方や、喫煙や新聞を購読している方もいる。 できるだけ日曜日は外出して気分転換できるように支援している。 | | |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 天気の良い時には朝の散歩を(車椅子を利用される方も一緒に)行っている。また、食材等の買出しや、日曜日にはデイサービスの車を利用して、できるだけ外出をしている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 前回評価時の課題であった、2階玄関の開放についてはチャイムを付けることで施錠を行うことなく、対応できている。また、各居室は、外から施錠することはなく、マスターキーも使用していない。 | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|----|---|--|---------------------|---|
| 27 | 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 災害対策として、緊急時マニュアル・職員連絡網を作成し、年2回の防災訓練を実施し、非常時備蓄も少量ある。しかし、災害時に地域から助けを得るための具体策の協議には至っていない。 | | 火災だけでなく、地震に対しても、備蓄をもっと十分な量にして、夜間の災害発生に対応できるように、日頃より地域住民との交流会・勉強会により協力が得られるようにしていき、市街地にあるホームの条件を活かした近隣からの応援体制の構築を図っていくことが望まれる。 |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者全員の食事や水分摂取量は、チェック表で把握している。食の細かい方には無理強いしない程度に声かけし、嚥下困難な方にも時間をかけての食事支援を行っている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居間兼食堂には大きな窓があり、明るく落ち着いた雰囲気である。窓際に沿って、ソファを始め、色々な椅子が置かれている。居間や玄関には習字やお手製の着物を着せた人形など利用者の作品等が飾られている。 | | |
| 30 | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は少しずつ間取りが異なるが、仏壇や写真、切り抜きなどそれぞれの利用者馴染みの持ち物を持ち込んでいる。 | | |

 は、重点項目。